「社会文化史データベース―性風俗稀少雑誌コレクション」収録の戦後性風俗雑誌の書誌解題

性社会・文化史研究者／明治大学非常勤講師　三橋 順子

「データベース」に収録した雑誌の書誌を解説する。ただし、すべての雑誌について十分な収集ができているわけではなく、雑誌によって判っていることにかなり精粗がある。あくまで現時点で判明している範囲ということでご容赦願いたい。

なお、完全収集している『風俗草紙』『風俗科学』、かなりの程度、収集が進んでいる『真相実話』『デカメロン』『内外特報』『怪奇雑誌』『奇抜雑誌』『風俗奇譚（臨時増刊）』『画報　風俗奇譚』については、「各冊データ」も掲げ、刊行状況の全体像がわかるようにした。

1　『風俗草紙』　付『現代読本』

「風俗」を名乗った最初の雑誌である。「風俗」とは本来、ある社会（時代・地域・階層）に特徴的にみられる生活習慣、つまり、風習のことだが、現代では「性風俗」に特定的に用いられることが多い。『風俗草紙』はそうした用法の端緒だった。

昭和 28 年（1953）7 月号の奥付に「本誌は、孤独な病癖に憑かれた方々の為に心からなる友人、或いは集会場（サロン）たらんことを期して編集された雑誌」とある。「変態性欲」、とりわけ、サディズム（「縛り」）・マゾヒズムを中心とする性風俗文化が主なテーマだったが、「ソドミア」（男性同性愛）にも力を入れていた。また、レズビアニズム、女装愛好の記事もある。

書名	風俗草紙（ふうぞくぞうし）
刊行時期	1953 年（昭和 28）7 月～1954 年（昭和 29）10 月 1953 年（昭和 28）7 月、『特集雑誌 オール実話』増刊号として創刊。 1953 年（昭和 28）12 月、臨時増刊号として『秘蔵版 風俗草紙』（B 5 版）を刊行。 1954 年（昭和 29）の 3 月号と 5 月号は不発行。
冊数	2 冊の増刊号を入れて全 14 冊
出版社	日本特集出版社（東京都千代田区神田神保町 2-34→東京都千代田区神田猿楽町 1-3）
編集人・発行人	（編集）氏家富良・（発行）野村佳秀（1953 年 7 月号～1954 年 8 月号） （編集・発行）村田清（1954 年 9 月号～10 月号）
版型	A 5 版（増刊号を除く）。表紙は秋吉巒（らん）。
定価	100 円（増刊号を除く）
収録	『現代読本』 1 冊を含め全 14 冊を収録した。

【巻号について】

昭和 28 年（1953）7 月号の奥付に「風俗草紙第一号をお送りします」とあるので、これが創刊号に相当する。表紙には「特集雑誌 オール実話増刊」とある。また、昭和 28 年（1953）8 月号にも「特集雑誌 オール実話改題」とあり、「1 巻 5 号」とする。これらのことから、巻号記載は、前身の『特集雑誌 オール実話』（B 6 版）を引き継いだものと思われる。

昭和 29 年（1954）2 月号（2 巻 2 号）の後、3 月号は不発行だった。4 月号（2 巻 4 号）の奥付に「不測の事故で」「発行が遅れた」旨のお詫びがあり、「止むなく“三、四月合併号”と致します」とある。おそらく警察の摘発を受け発禁処分になったためと思われる。

昭和 29 年 4 月号（2 巻 4 号）と 8 月号（2 巻 6 号）の間は、5 月号、6 月号が不発行で、7 月号として『風俗草紙　臨時増刊　現代読本』を刊行している。昭和 29 年 8 月号の編集後記には「永らくお待たせしました。不測の事故続出で、誠にご迷惑をお掛けしたことをお詫び申し上げます」とあり、発禁処分があったことを思わせる。結果、7 月号（現代読本）が 2 巻 5 号、8 月号が 2 巻 6 号（2 巻 8 号と記載されているが、9 月号が 2 巻 7 号なので）に相当し、2 巻 3 号は欠番になった。

【各冊データ】　○はデータベース収録

巻号	タイトル	頁数	定価	出版社	所蔵状況
1-1	『特集雑誌 オール実話』創刊号（1953 年 4 月）				×
1-2	『特集雑誌 オール実話』1953 年 5 月号				×
1-3	『特集雑誌 オール実話』特別増刊（1953 年 6 月）				×
1-4	『風俗草紙』1953 年 7 月（相当）号（創刊号）	172 頁	100 円	日本特集出版社	○
1-5	『風俗草紙』1953 年 8 月号	176 頁	100 円	日本特集出版社	○
1-6	『風俗草紙』1953 年 9 月号	180 頁	100 円	日本特集出版社	○
1-7	『風俗草紙』1953 年 10 月号	192 頁	100 円	日本特集出版社	○
1-8	『風俗草紙』1953 年 11 月号	190 頁	100 円	日本特集出版社	○
1-9	『風俗草紙』1953 年 12 月号	192 頁	100 円	日本特集出版社	○
〔1-10〕	臨時増刊『秘蔵版 風俗草紙』（1953 年 12 月刊行）（B 5 版）	334 頁	500 円	日本特集出版社	○
2-1	『風俗草紙』1954 年 1 月号	226 頁	120 円	日本特集出版社	○
2-2	『風俗草紙』1954 年 2 月号（通巻 12 号）	200 頁	100 円	日本特集出版社	○
2-4	『風俗草紙』1954 年 4 月号	275 頁	150 円	日本特集出版社	○
2-？	『風俗草紙 臨時増刊 現代読本』1954 年 7 月号	261 頁	150 円	日本特集出版社	○
2-8？ (2-6 の誤り)	『風俗草紙』1954 年 8 月号	176 頁	100 円	日本特集出版社	○
2-7	『風俗草紙』1954 年 9 月号（通巻 16 号）	194 頁	100 円	日本特集出版社	○
2-8	『風俗草紙』1954 年 10 月号（通巻 17 号）	196 頁	100 円	日本特集出版社	○

昭和 29 年 10 月号（2 巻 8 号、通巻 17 号）以降は存在が確認できない。これが最終号と思われる。この号には、ほぼ常時掲載されていた「そどみあ通信」「レスボス通信」「読者交歓室」がなく、終刊は予定されたものであったと推測される。

最終号は通巻 17 号とされているが、これは前身の『オール実話』3 冊をカウントしたもので、1954 年 10 月号掲載の「風俗草紙 1 年の歩み」によれば、実際に『風俗草紙』として刊行されたのは 2 冊の増刊号を入れて 14 冊と思われる。

なお、『現代読本』という誌名の雑誌は、3 巻 1 号が 1958 年 2 月に日本文芸社（千代田区神田神保町 2-34）から刊行されている。日本特集出版社と住所が同じで、編集人も氏家富良であることから、同系列と思われるが、『風俗草紙』との直接的な関連は認められない。

【参考文献】黒田明「雑誌『風俗草紙』の書誌」（『股旅堂古書目録』24 号、2021 年 6 月）

2　『風俗科学』

『風俗科学』は、『風俗草紙』に遅れること 1 カ月の 1953（昭和 28）8 月に創刊され、『風俗草紙』より半年ほど長く、1955 年（昭和 30）3 月まで刊行されたと思われる。「風俗」を名乗った 2 冊目の雑誌。

「科学」という書名の通り、「特異風俗」の研究を目的に掲げ、創刊号で「真面目な真剣な研究者や愛好家の集いとして、健全に育てたい」と編集人の西條道夫が言っているように、性科学・性風俗の研究雑誌の体裁を取った。したがって、内容も論考やレポートが中心で、小説などのフィクションは少ない。

また、創刊号で西條が「ソドミア研究家のために、特別に頁を設け、お便宜を計りたいと思います」と述べているように、ソドミア（男性同性愛）研究・交流に力を入れていて、1950 年代の男性同性愛世界の研究資料としても価値が高い。

『人間探究』、『風俗草紙』、『あまとりあ』と並ぶ 1950 年代の性風俗文化雑誌の代表的なものである。

書名	風俗科学（ふうぞくかがく）
刊行時期	1953 年（昭和 28）8 月～1955 年（昭和 30）3 月？ 昭和 28 年（1953）8 月号（1 巻 1 号）と 10 月号（1 巻 2 号）の間が飛んでいて、9 月号は不発行。刊行は比較的順調で、発禁処分などを受けた形跡はない。 昭和 30 年（1955）3 月号（通巻 19 号？）以降については　実物はもとより、存在した形跡もまったく確認できず、これが最終号と思われる。
冊数	全 19 冊？
出版社	第三文庫（東京都千代田区神田小川町 2－10）

編集人・発行人	（編集兼発行人）西條道夫　（1953 年 8 月号～1954 年 4 月号） （編集兼発行人）町田伸五　（1954 年 5 月号） （編集人）手塚正夫　（発行人）町田伸五（1954 年 6 月号～10 月号） （編集人）西条道夫　（発行人）町田伸五（1954 年 11 月号～1955 年 3 月号）
版型	A 5 版
定価	100 円
収録	全 19 冊を収録。

【特異風俗研究会・風俗科学研究会（ＦＫＫ）について】

『風俗科学』編集長西條道夫が発起した男性同性愛に興味をもつ人々の友好団体。1953 年 8 月の『風俗科学』創刊号に「武野藤介先生にお願いして、着々準備を進めて居り」とあり、雑誌創刊時から企画されていた。創刊号～1953 年 12 月号（1 巻 4 号）では「特異風俗研究会」の名称で会員が募られている。そして、1954 年 1 月号（2 巻 1 号）に「読者各位の熱心な要望により『風俗研究会』を発足することになりました」という「『風俗科学研究会』のお知らせ」が載り、「風俗科学研究会」の名称で発会したものと思われる。

会の性格については「ソドミア愛好者だけの会とすること」と規定され、実質的には男性同性愛の愛好者の親睦団体だった。具体的には、『風俗科学』編集室を通して資料や意見の交換を行った。

100 円の入会費と『風俗科学』3 か月（後に 4 か月）の契約で入会可能で、会員名簿も発行されるが、実名ではなく、会員同士の手紙のやりとりは『風俗科学』編集室を通すことになっていた。ただし、親しくなった会員同士は直接手紙のやりとり、または会合は可能だった。

事務局は、第三文庫に置かれ、会員は最盛期で 500 人以上（1954 年 11 月号の編集後記、資料番号 2-15-29）だった。

【各冊データ】　○はデータベース収録

巻号	タイトル	頁数	定価	出版社	所蔵状況
1－1	『風俗科学』1953 年 8 月号	180 頁	100 円	第三文庫	○
1－2	『風俗科学』1953 年 10 月号	180 頁	100 円	第三文庫	○
1－3	『風俗科学』1953 年 11 月号	180 頁	100 円	第三文庫	○
1－4	『風俗科学』1953 年 12 月号	180 頁	100 円	第三文庫	○
2－1	『風俗科学』1954 年 1 月号	180 頁	100 円	第三文庫	○
2－2	『風俗科学』1954 年 2 月号	180 頁	100 円	第三文庫	○
2－3	『風俗科学』1954 年 3 月号	180 頁	100 円	第三文庫	○
2－4	『風俗科学』1954 年 4 月号	180 頁	100 円	第三文庫	○
2－5	『風俗科学』1954 年 5 月号	180 頁	100 円	第三文庫	○
2－6	『風俗科学』1954 年 6 月号	180 頁	100 円	第三文庫	○
2－7	『風俗科学』1954 年 7 月号	192 頁	100 円	第三文庫	○

2－8	『風俗科学』1954 年 8 月号	184 頁	100 円	第三文庫	○
2－9	『風俗科学』1954 年 9 月号	200 頁	100 円	第三文庫	○
2－10	『風俗科学』1954 年 10 月号	200 頁	100 円	第三文庫	○
2－11	『風俗科学』1954 年 11 月号	196 頁	100 円	第三文庫	○
2－12	『風俗科学』1954 年 12 月号	196 頁	100 円	第三文庫	○
3－1	『風俗科学』1955 年 1 月号	196 頁	100 円	第三文庫	○
3－2	『風俗科学』1955 年 2 月号	196 頁	100 円	第三文庫	○
3－3	『風俗科学』1955 年 3 月号	228 頁	100 円	第三文庫	○

3　『風俗クラブ』

『風俗草紙』より 8 か月、『風俗科学』よりも 7 カ月遅れて刊行された三番手の『風俗○○』だったが、短命に終わった（「三匹目の泥鰌」はいなかった）。
表紙に「新しい風俗と文化をむすぶ雑誌」と銘打たれているが、内容は「猟奇（サド・マゾ）」中心に「アブ（男色、フェチ）」を加えたもので、『風俗草紙』に類似する。

書名	風俗クラブ（ふうぞくくらぶ）
刊行時期	1954 年（昭和 29）3 月～1954 年（昭和 29）5 月？ 第 2 号（1954 年 5 月号）の編集後記に「本号は発行日遅延のため五月号とし、したがって四月号は休刊になりました」とある。現在のところ、創刊号と 2 号の 2 冊しか確認できていない。おそらく「3 号雑誌」に届かなかったと思われる。
冊数	全 2 冊？
出版社	春光社（文京区湯島三組町 10）
編集人・発行人	秋房 醇
版型	A 5 版。表紙は原英夫。
定価	100 円
備考	1960 年（昭和 35）2 月に、風俗研究社（文京区根津須賀町 9）からまったく同名の『風俗クラブ』という雑誌が刊行されている。現在のところ創刊号しか確認できない。
収録	風俗研究社刊行のものも含めて 3 冊収録。

4　『人間探究』

「文化人の性科学誌」と称した。「性科学」を称した最初の雑誌。

書名	人間探究（にんげんたんきゅう）
刊行時期	1～31 号　1950 年（昭和 25）5 月～1952 年（昭和 27）11 月 別冊「秘版　艶本の研究 1 ・ 2 」1952 年 5・9 月 復刊 1～3 号　1953 年（昭和 28）5 月～8 月
冊数	別冊 2 冊、復刊 3 冊を入れて全 36 冊とされるが、29 号は存在が確認できず、刊行されていない可能性が大である。内、33 冊を所蔵。
出版社	第一出版社（東京都中央区銀座 6-3→港区芝新橋 2-32）→探究社（東京都杉並区方南町 119）
編集人・発行人	１～２号（編集人）奥田十三生、（発行人）酒井孝 ３～８号（編集人）奥田十三生、（発行人）堀井清 ９～11 号（編集・発行人）堀井清 13～27 号（編集・発行人）石川四司
版型	Ａ５版、124→156 頁
定価	70→75→80→85→90→95 円
収録	所蔵 33 冊中、５冊を収録。

5　『りべらる』　付『漫画タイム』

代表的な「カストリ雑誌」で 10 年もの長きにわたって刊行された。

書名	りべらる
刊行時期	『りべらる』1946 年（昭和 21）1 月～1955 年（昭和 30）9 月 『漫画タイム』1955 年（昭和 30）9 月～1956 年 2 月 1955 年（昭和 30）9 月に、『りべらる』から『漫画タイム』に移行する。その過程は複雑で、『りべらる』1955 年 8 月号が刊行されると、ほぼ同時に「りべらる増刊」として『漫画タイム』（10 巻 10 号）が刊行される。『りべらる』としての刊行は 1955 年 9 月号（10 巻 11 号）が最後で、直後に『漫画タイム』9 月 1 日号（10 巻 12 号）が発行された。 『漫画タイム』になってからは月 2 回発行（1 日号と 20 日号）となった。しかし、1956 年（昭和 31）年 2 月号で『漫画タイム』も終刊となった。
冊数	『りべらる』119 冊＋？　内 20 冊を所蔵 『漫画タイム』13 冊？　内 2 冊を所蔵
出版社	創刊（1946 年 1 月）～1955 年 3 月　太虚堂書房 1955 年 4 月～　白羊書房 10 巻 5 号（1955 年 4 月号）の奥付の発行所はすでに白羊書房になっている。また、最終頁の「編集室」というコーナーに、「この度、約十年にわたって皆様に親しまれて来た「太虚堂書房」と云う社名を、本年初頭より「白羊書房」と変更致しました。勿論社の内容にはなんらの変更もありません」という挨拶文が載っている。『りべらる』の発行所が「太虚堂書房」から「白羊書房」に変わったのは社名変更だったことがわかる。
編集人・発行人	（編集人）町田進→中村誠→松尾秀夫→中村誠→森山篤→別所忠男 （発行人）吉田一郎→谷山茂→中村誠
版型	Ｂ５版
定価	『りべらる』25→65→100 円 『漫画タイム』35→40 円
収録	『漫画タイム』１冊を含む９冊を収録。
備考	1960 年(昭和 35)に「財団法人東京美術文化協会」から同名の雑誌が刊行されているが、巻号数は引き継いでいない（1961 年 1 月号：2 巻 1 号を所蔵）。

【参考文献】「ＳＭペディア：りべらる」
http://smpedia.com/index.php?title=%E3%82%8A%E3%81%B9%E3%82%89%E3%82%8B
（2022 年 4 月 6 日アクセス確認）

6　『千一夜』　付『楽園』

アラビアの説話集『千一夜物語』（アラビアン・ナイト）から書名をとっている。性的な読み物や探偵小説など。

書名	千一夜（せんいちや）
刊行時期	『千一夜』1948 年（昭和 23）6 月号～1954 年 7 月号 『楽園』1954 年 8 月号～11 月号～ 創刊は 1948 年（昭和 23）6 月号（5 月 1 日発行）。「ブランゲ文庫」に創刊号がある（筆者も所蔵）。1 巻 2 号と 3 号は「オール物語」という書名で刊行され、1 巻 4 号から「千一夜」に戻る。どのような経緯だったのか不明。1951 年に、別冊として『千一夜画報』が刊行されている。終刊は 1954 年（昭和 29）7 月号で、次の 8 月号から『楽園』に改題するが、巻号は『千一夜』を引き継いだ。『千一夜』としての刊行は 6 年間。『楽園』創刊号に「『千一夜』改題に就いて愛読者の皆様へ」という 1954 年 8 月の告知文（挿紙）があり「従来のアラビアンニズムをさらりと棄てて、御覧の通りの『楽園』に生まれ変わりました。二十世紀の『楽園』とは、そのむかし、アダムとイブが禁断の木の実を食べた不自由な『楽苑』ではないはずであります。」とある。『楽園』の終刊時期は不明だが、1954 年 11 月号（7 巻 11 号）を所蔵。改題後、あまり長くは続かなかったと思われる。
冊数	72 冊？（『楽園』を含まず）内 36 冊を所蔵。『楽園』は冊数不明で 2 冊を所蔵。
出版社	創刊号　東京出版社（中央区日本橋芳町 2-2） ２号～「明星社」（大阪市北区梅田町 37） 1950 年（昭和 25）秋「千一夜出版社」（葛飾区下小松町 1367→荒川区日暮里町 2-9） 1952 年（昭和 27）年 5 月「桃源社」（東京日暮里 2-9） 荒川区日暮里 2 丁目には「明星社」の支社があった。もともと大阪で出版されていたが、本社を東京に遷したものと思われ、実態的には同一の出版社だろう。
編集人・発行人	（編集人）有吉玄蔵→徳永巌→葉田光→中島義雄→有吉玄蔵 （発行人）有吉玄蔵→徳永巌→中島義雄→有吉玄蔵
版型	Ｂ５版
定価	25→50→70→80→90 円
収録	『千一夜』所蔵 36 冊中 31 冊を収録。

7　『真相実話』

創刊号の表紙に「特ダネ実話雑誌」と銘打っているように、取材力を売りに、それまで盛行していた「猟奇雑誌」「曝露雑誌」とは一線を画そうとしていた。表紙も当初は他誌に比べると地味だった。しかし、徐々にエロ・グロ中心になっていく。1960 年代に主流になる「実話系雑誌」の先駆的な雑誌。

書名	眞相實話（しんそうじつわ）
刊行時期	1949 年（昭和 24）5 月創刊～1952 年（昭和 27）10 月（4 巻 10 号）～
冊数	増刊号入れて 43 冊以上、内、34 冊と付録 6 点を所蔵
出版社	眞相實話社（東京千代田区富士見町 1-10　共済ビル）
編集人・発行人	斎藤浄子
版型	Ｂ６版 Ｂ５版薄手が主流だった「カストリ雑誌」に対して、半分のハンディなＢ６版で、頁数は 150～160 頁と厚みがある。最末期の 1952 年 8 月号（4 巻 8 号）からＢ５版になる。1 巻 2 号～2 巻 6 号には、毎号ではなかったが、付録として豆本サイズ（Ｂ７版）の別冊が付いていた。
定価	別冊共 60 円→80～90 円
収録	所蔵の 41 冊（うち付録 6 点）の内、40 冊（うち付録 6 点）を収録。

【各冊データ】　○はデータベース収録、未は所蔵しているが未収録、×は所蔵なし

巻号／タイトル	版型	頁数	定価	出版社	所蔵状況
1 巻 1 号（1949 年 5 月創刊号）	Ｂ６版	148 頁	60 円	真相実話社	○
1 巻 2 号（1949 年 6 月）	Ｂ６版	164 頁	60 円	真相実話社	○
付録「戦後版ブラック・リスト」	Ｂ７版				○
1 巻 3 号（1949 年 7 月）	Ｂ６版			真相実話社	×
付録「性典珍書テキスト」	Ｂ７版				○
1 巻 4 号（1949 年 8 月）	Ｂ６版	164 頁	60 円	真相実話社	○
付録「性愛占ひ宝典」	Ｂ７版				○
1 巻 5 号（1949 年 9 月）	Ｂ６版	164 頁	60 円	真相実話社	○
1 巻 6 号（1949 年 10 月）					×
1 巻 7 号（1949 年 11 月）					×
1 巻 8 号（1949 年 12 月）	Ｂ６版	164 頁	60 円	真相実話社	○
2 巻 1 号（1950 年 1 月）	Ｂ６版	228 頁	70 円	真相実話社	○

2巻2号（1950年2月）	B 6版	164頁	60円	真相実話社	○
2巻3号（1950年3月）	B 6版	164頁	60円	真相実話社	○
付録「結婚初夜の性典」	B 7版	32頁			○
2巻4号（1950年4月）	B 6版	164頁	60円	真相実話社	○
付録「艶笑媚譚集」	B 7版	32頁			○
2巻5号（1950年5月）	B 6版	164頁	60円	真相実話社	○
付録「猟奇風俗手帖」	B 7版	32頁			○
2巻6号（1950年6月）	B 6版	164頁	60円	真相実話社	○
付録「女性の性犯罪研究」	B 7版	32頁			○
2巻7号（1950年7月）	B 6版	164頁	50円	真相実話社	○
夏季増刊（1950年7月）「女の秘密」	B 6版	164頁	50円	真相実話社	○
2巻8号（1950年8月）	B 6版	164頁	50円	真相実話社	○
2巻9号（1950年9月）					×
2巻10号（1950年10月）					×
2巻11号（1950年11月					×
2巻12号（1950年12月）	B 6版	214頁	65円	真相実話社	○
3巻1号（1951年1月号）	B 6版	246頁	70円	真相実話社	○
3巻2号（1951年2月号）	B 6版	230頁	70円	真相実話社	○
3巻3号（1951年3・4月合併号）「陽春特別号」	B 6版	248頁	80円	真相実話社	○
3巻5号（1951年5月号）	B 6版	216頁	80円	真相実話社	○
3巻6号（1951年6月号）	B 6版	216頁	75円	真相実話社	○
3巻7号（1951年7月号）	B 6版	318頁	75円	真相実話社	○
3巻8号（1951年8月号）	B 6版	200頁	75円	真相実話社	○
3巻9号（1951年9月号）	B 6版	200頁	75円	真相実話社	○
3巻10号（1951年10月号）	B 6版	200頁	75円	真相実話社	○
3巻11号（1951年11月号）	B 6版	218頁	70円	真相実話社	○
3巻12号（1951年12月号）	B 6版	218頁	70円	真相実話社	○
4巻1号（1952年1月号）	B 6版	266頁	80円	真相実話社	○
4巻2号（1952年2月号）	B 6版	250頁	80円	真相実話社	○
4巻3号（1952年3月号）	B 6版	250頁	80円	真相実話社	○
4巻4号（1952年4月号）	B 6版	250頁	80円	真相実話社	○
4巻5号（1952年5月号）					×
4巻6号（1952年6月号）					×

4 巻 7 号（1952 年 7 月号）	B 6 版	318 頁	90 円	真相実話社	○
----------（版型変更）----------					
4 巻 8 号（1952 年 8 月号）	B 5 版	134 頁	80 円	真相実話社	○
4 巻 9 号（1952 年 9 月号）	B 5 版	150 頁	90 円	真相実話社	未
4 巻 10 号（1952 年 10 月号）	B 5 版	150 頁	80 円	真相実話社	○

8　『デカメロン』

戦後の性風俗雑誌としては『りべらる』に次いで長命だった。

書名	デカメロン
刊行時期	1946 年（昭和 21）12 月～1955 年（昭和 30）3 月号～ 「プランゲ文庫」に 1946 年 12 月の創刊号がある。現在、1955 年 3 月号まで確認している（所蔵）。約 9 年間、刊行された。なお、戦前の 1931 年（昭和 6）に風俗資料刊行會から刊行された『デカメロン』と、戦後の『デカメロン』はまったく別系統である。
冊数	93 冊？　内、44 冊を所蔵
出版社	創刊～1949 年 7 月号～　　東京ロマンス社（東京都台東区上野公園不忍池畔） ～1949 年 10 月～1950 年 3 月～　竹内書房（東京都台東区上野公園不忍池畔） ～1950 年 12 月～1955 年 2 月　　全日本出版社（東京都千代田区神田小川町 2-10） 東京ロマンス社と竹内書房は、住所の一致から同一の出版社で、社名を変更したものと思われる。竹内書房から全日本出版社への移行は、版型（A 5→B 6）、表紙デザイン、編集人・発行人が変わっていて、編集体制に実質的かつ大きな変化があったことを思わせる。
編集人・発行人	（編集人）郡山千冬→辻秀雄→内山幸一→三沢吉三→渡辺清 （発行人）郡山千冬→佃留雄→二上信夫→三沢吉三→渡辺清
版型	創刊（1946 年 12 月）～1950 年 3 月～　A 5 版 ～1950 年 12 月～1955 年 2 月　　B 6 版 B 6 版になるのとほぼ同時に、表紙デザインが、それまでの美人画（伊勢田邦彦）から、大久保四郎による特徴的な多色の漫画チックなものに変わる（1950 年 12 月号は秋吉巒）。
定価	25→90 円

巻次の逆行	1953 年 11 月号が 7 巻 11 号であり、次の 12 月号は 7 巻 12 号になるはずだが、なぜか 3 巻 7 号になっている。表紙と奥付の記載は一致しているので、単純な誤植ではない。そして 1954 年（昭和 29）発行分は本来 8 巻になるべきところが 4 巻になり、巻次が 4 つも戻ってしまっている。その事情については、なにも記されてなく今のところ不明。この時期の雑誌の通巻の数え方はけっこういい加減で 1 、 2 号のズレがあることは珍しくないが、巻次がこれほど逆行するのは他に例がない。
収録	所蔵 44 冊中、26 冊を収録。

【各冊データ】　所蔵号のみ。○はデータベース収録、未は所蔵しているが未収録

巻号／タイトル	版型	頁数	定価	出版社	所蔵状況
5 号（1 巻 5 号）1947 年 8 月	A 5 版	64 頁	25 円	東京ロマンス社	未
6 号（1 巻 6 号）1947 年 9 月	A 5 版	64 頁	25 円	東京ロマンス社	未
7 号（1 巻 7 号）1947 年 11 月	A 5 版	64 頁	25 円	東京ロマンス社	未
11 号（2 巻 4 号）1948 年 6 月	A 5 版	64 頁	30 円	東京ロマンス社	未
13 号（2 巻 6 号）1948 年 8 月	A 5 版	64 頁	30 円	東京ロマンス社	未
3 巻 3 号 1949 年 3 月号	A 5 版	96 頁	60 円	東京ロマンス社	未
3 巻 10 号 1949 年 10 月号	A 5 版	100 頁	60 円	竹内書房	未
4 巻 1 号 1950 年 1 月号「3 周年」	A 5 版	204 頁	95 円	竹内書房	未
4 巻 3 号 1950 年 3 月号	A 5 版	136 頁	75 円	竹内書房	未
----------（版型変更）----------					
4 巻 12 号 1950 年 12 月号	B 6 版	206 頁	70 円	全日本出版社	未
5 巻 1 号 1951 年 1 月号	B 6 版	224 頁	65 円	全日本出版社	○
5 巻 2 号 1951 年 2 月号	B 6 版	224 頁	70 円	全日本出版社	○
5 巻 3 号 1951 年 3 月号	B 6 版	226 頁	70 円	全日本出版社	未
5 巻 5 号 1951 年 5 月号	B 6 版	226 頁	70 円	全日本出版社	○
5 巻 6 号 1951 年 6 月号	B 6 版	226 頁	75 円	全日本出版社	○
5 巻 9 号 1951 年 7 月号	B 6 版	230 頁	80 円	全日本出版社	○
5 巻 10 号 1951 年 8 月号	B 6 版	230 頁	75 円	全日本出版社	○
6 巻 3 号 1952 年 3 月号	B 6 版	258 頁	70 円	全日本出版社	○
6 巻 4 号 1952 年 4 月号	B 6 版	258 頁	70 円	全日本出版社	○
6 巻 5 号 1952 年 5 月号	B 6 版	410 頁	100 円	全日本出版社	○
6 巻 7 号 1952 年 7 月号	B 6 版	206 頁	85 円	全日本出版社	○
6 巻 8 号 1952 年 8 月号	B 6 版	258 頁	70 円	全日本出版社	○
6 巻 9 号 1952 年 9 月号	B 6 版	250 頁	90 円	全日本出版社	未
別冊附録「色相性器判別大鑑」	A 5 版	82 頁			未

6巻10号 1952年10月号	B 6版	250頁	90円	全日本出版社	未
6巻12号 1952年12月号	B 6版	250頁	90円	全日本出版社	○
7巻1号 1953年1月号	B 6版	250頁	90円	全日本出版社	○
別冊付録「実用十二ヶ月愛情暦」（1953年1月）	A 5版	104頁			○
7巻3号 1953年3月号	B 6版	226頁	90円	全日本出版社	○
7巻6号 1953年6月号	B 6版	386頁	90円	全日本出版社	○
7巻8号 1953年8月号	B 6版	370頁	90円	全日本出版社	○
7巻9号 1953年9月号	B 6版	354頁	90円	全日本出版社	○
7巻10号 1953年10月号	B 6版	242頁	90円	全日本出版社	○
7巻11号 1953年11月号	B 6版	354頁	90円	全日本出版社	○
----------（以後、巻次逆行）----------					
3巻7号 1953年12月号	B 6版	354頁	90円	全日本出版社	○
4巻1号 1954年1月号	B 6版	390頁	100円	全日本出版社	未
4巻2号 1954年2月号	B 6版	346頁	90円	全日本出版社	○
4巻4号 1954年4月号	B 6版	338頁	90円	全日本出版社	未
4巻5号 1954年5月号	B 6版	338頁	90円	全日本出版社	○
4巻6号 1954年6月号	B 6版	344頁	90円	全日本出版社	○
4巻8号 1954年8月号	B 6版	344頁	90円	全日本出版社	未
4巻9号 1954年9月号	B 6版	344頁	90円	全日本出版社	○
4巻10号 1954年10月号	B 6版	328頁	90円	全日本出版社	未
5巻2号 1955年2月号	B 6版	318頁	90円	全日本出版社	未
5巻4号 1955年3月号	B 6版	318頁	90円	全日本出版社	○

9　『内外特報』

A 5 版、薄手の旬刊誌。

書名	内外特報（ないがいとくほう）
刊行時期	1953 年（昭和 28）9 月～1954 年 4 月？ 初期の号に「人情講談改題」と記されていて、睦書房から刊行されていた月刊誌『人情講談』（1949 年創刊）を引き継ぐ形だった。しかし、内容も刊行形態も異なり、巻号も継承していない。なお『人情講談』は 1948 年 11 月創刊で、1953 年 5 月号（4 巻 6 号）まで確認できる。 1953 年 11 月 1 日号に「1 巻 8 号」とあり、これから旬刊として逆算すると、同年 8 月下旬号が創刊号に相当すると思われる、なお創刊号と次号（9 月上旬号）には、「東京生活増刊」とあり、睦書房の雑誌『東京生活』の増刊という形だった。1953 年 11 月に旬刊から週刊（月曜日刊行）になったが、1954 年 1 月後半以降、再び旬刊に戻った（5 の日刊行）。
冊数	23 冊＋3 冊？　内 20 冊を所蔵。 1953 年（昭和 28）12 月 28 日号に「1 巻 16 号」とあるので、1953 年中の刊行は 16 冊であったことが確定できる。現在、確認できる最後の 1954 年（昭和 29）4 月 5 日号が「2 巻 7 号」なので、合わせて 23 冊は刊行された。その後、5 月中旬に『内外旬報』に移行するまでの間に 3 冊ほど刊行された可能性があるが不明。なお、2 月 25 日号が 2 巻 5 号で、4 月 5 日号が 2 巻 7 号なので、3 月には 1 冊しか刊行されなかったことになり、定期刊行が乱れている。
出版社	1953 年（昭和 28）9 月～10 月　睦書房（千代田区駿河台 3-3） 1953 年（昭和 28）11 月～　内外特報新聞社（千代田区駿河台 3-3） 住所が同じなので、社名変更と思われる。
編集人・発行人	（編集人）川越嵬→吉光寺久孝 （発行人）小林光雄
版型	B 5 版、78 頁
定価	30 円
収録	所蔵の 20 冊中、6 冊を収録。なお、『内外特報』は国会図書館にはまったく所蔵されていない。

【各冊データ】　○はデータベース収録、未は所蔵しているが未収録、×は所蔵なし

巻号	タイトル	版型	頁数	定価	出版社	所蔵状況
1-1	1953 年 8 月下旬号（8 月 15 日）（東京生活増刊）	B 5 版	78 頁	30 円	睦書房	○

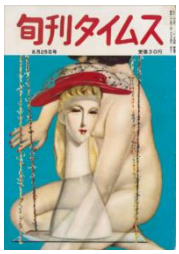
1-2	1953 年 9 月上旬号（9 月 5 日？） （東京生活増刊）	B 5 版	78 頁	30 円	睦書房	○
1-3	1953 年 9 月中旬号（10 月？15 日） （号外）	B 5 版	78 頁	30 円	睦書房	未
1-4	1953 年 9 月下旬号（9 月 25 日）	B 5 版	78 頁	30 円	睦書房	○
1-5	1953 年 10 月上旬号（10 月 5 日）	B 5 版				×
1-6	1953 年 10 月中旬号（10 月 15 日）	B 5 版	78 頁	30 円	睦書房	○
1-7	1953 年 10 月 19 日号 *1-7 より週刊（毎週月曜発行）	B 5 版	78 頁	30 円	睦書房	○
1-8	1953 年 11 月 1 日	B 5 版	78 頁	30 円	内外特報新聞社	未
1-9	1953 年 11 月 8 日	B 5 版	78 頁	30 円	内外特報新聞社	未
1-10	1953 年 11 月 15 日	B 5 版	78 頁	30 円	内外特報新聞社	未
1-11	1953 年 11 月 22 日	B 5 版	78 頁	30 円	内外特報新聞社	未
1-12	1953 年 11 月 30 日	B 5 版	78 頁	30 円	内外特報新聞社	○
1-13	1953 年 12 月 7 日号	B 5 版	78 頁	30 円	内外特報新聞社	未
1-14	1953 年 12 月 14 日号	B 5 版	78 頁	30 円	内外特報新聞社	未
1-15	1953 年 12 月 21 日号	B 5 版	78 頁	30 円	内外特報新聞社	未
1-16	1953 年 12 月 28 日号	B 5 版	78 頁	30 円	内外特報新聞社	未
2-1	1953 年 1 月 4 日号	B 5 版	78 頁	30 円	内外特報新聞社	未
2-2	1954 年 1 月 11 日号	B 5 版	78 頁	30 円	内外特報新聞社	未
2-3	1954 年 1 月 18 日号	B 5 版	78 頁	30 円	内外特報新聞社	未
2-4	1954 年　*再び旬刊に（5 の日）					×
2-5	1954 年 2 月 25 日号	B 5 版	78 頁	30 円	内外特報新聞社	未
2-6	1954 年					×
2-7	1954 年 4 月 5 日号	B 5 版	78 頁	30 円	内外特報新聞社	未

10　『内外旬報』

B 5 版、薄手の旬刊誌。『内外特報』の後継誌。

書名	内外旬報（ないがいじゅんぽう）
刊行時期	1954 年（昭和 29）5 月中旬～1955 年 6 月～

冊数	38 冊ほど？　内 13 冊を所蔵。
出版社	東京内外新聞社（東京都千代田区神田駿河台 3－3） この住所は、『内外特報』を刊行していた内外特報新聞社と同一であり、社名の類似から同一の会社と思われる。『内外特報』と『内外旬報』は表紙のデザインや内容の類似性が高く、また確認される刊行時期は重ならず、『内外特報』の後継誌が『内外旬報』であると推定される。
編集人・発行人	（編集人）笹屋義昭→春日三郎→佐藤深 （発行人）佐藤深
版型	Ｂ５版、62 頁。
定価	30 円
収録	所蔵の 13 冊中 8 冊を収録。なお、『内外旬報』は国会図書館にはまったく所蔵されていない。



11　『旬刊タイムス』

Ｂ５版、薄手の旬刊誌。『内外特報』とほぼ同一の記事が複数みられる。

書名	旬刊タイムス（じゅんかんたいむす）
刊行時期	～1954 年（昭和 29）5 月～7 月～ 1954 年 5 月 25 日号、6 月 25 日号、7 月 25 日号の 3 冊しか所蔵していないので詳細は不明。誌名からして旬刊で「5 の日」発行と思われる。
冊数	不明
出版社	東阪社（千代田区神田猿楽町 2-2）
編集人・発行人	広田定雄
版型	Ｂ５版、62 頁。
定価	30 円
同名の軍事雑誌との関係	国会図書館に所蔵されている『旬刊タイムス』（東京内外新聞社）は、軍事雑誌（太平洋戦争の戦史）で、1956 年 5 月に第 2 集が刊行され、1957 年 3 月の第 18 集まで刊行されている。これと、性風俗系の『旬刊タイムス』の関係が問題になる。軍事系の『旬刊タイムス』の発行元は、『内外特報』→『内外旬報』の発行元である東京内外新聞社であることに注目すれば、1956 年頃に、同じような旬刊誌を発行していた東阪社を東京内外新聞社が吸収・合併し、『旬刊タイムス』の誌名のまま、内容を軍事系に転換したのではないだろうか？
収録	所蔵の 3 冊中、２冊を収録。

12　『夜よむ（みる）新聞』

Ｂ５版 62 頁の薄手の雑誌。「半旬刊誌」（5 日に 1 度）の可能性がある。

書名	『夜よむ新聞』～1954 年（昭和 29）7 月 1 日号～1955 年（昭和 30）3 月 5 日号 『夜みる新聞』～1955 年 4 月 20 日号～5 月 15 日号～ 『夜よむ新聞』と『夜みる新聞』とがあるが、表紙デザインや形態から同一の雑誌とみて間違いない。『夜みる』も複数あるので誤植ではなく、なんらかの事情（出版社の東京移転？）で『夜よむ』から『夜みる』へ誌名を変更したと思われる。誌名変更の時期は 1955 年 3～4 月である。
刊行時期	1954 年（昭和 29）7 月 1 日号？～1955 年（昭和 30）5 月 15 日号？ 奥付がなく、巻号の記載もなく、不明な点が多いが、収集した範囲で、1954 年 7 月から 1955 年 5 月の少なくとも 10 カ月ほど刊行されたことがわかる。刊行日は日まで記載されているが、隔週刊（月 2 回）もしくは旬刊（月 3 回）と仮定しても、現在の収集範囲では規則性が見いだせない。収集範囲では、5 の日が 6 冊、10 の日が 3 冊で、もしかすると「5、10 日（ごとうび）」刊行かもしれない。とすると、月 6 回（5 日置き）の刊行（半旬刊？）となり、雑誌としてはかなりの頻度になる。形態は雑誌（冊子体）だが、「新聞」と名乗ったのは、そうしたことなのかもしれない。
冊数	週 2 回の刊行と仮定すると 60 冊以上は刊行されたことになる。臨時増刊を含め 10 冊を所蔵。
出版社	1954 年 7 月～　日本報道出版社（名古屋市東区豊前町 3-15） 1954 年 10 月～　報道写真新聞社（名古屋市東区豊前町 3 丁目） 1955 年 4 月～　報道通信社（東京都文京区片町 1-25） 短期間に三遷するが、住所からして最初と 2 つ目は同じ会社だろう。この時期、名古屋本拠の雑誌は珍しいが、最終的には東京に移転した。
編集人・発行人	記載なし
版型	Ｂ５版、62 頁
定価	30 円
収録	所蔵の 10 冊中 9 冊を収録した。

13　『怪奇雑誌』

「怪奇」趣味にもとづき広く性風俗記事を収録。男娼関係の記事も多い。

書名	怪奇雑誌（かいきざっし）
刊行時期	1948 年（昭和 23）10 月？～1952 年 12 月～ 「プランゲ文庫」に 2 号(1948 年 11 月)が所蔵されているので、1948 年 10 月の創刊と推定できる。今のところ 1952 年（昭和 27）12 月号まで確認できる。足かけ 5 年は刊行された。
冊数	51 冊？　内、34 冊を所蔵
出版社	創刊～1952 年 5 月　創文社（渋谷区緑ヶ丘 7 番地中央平和会館内→港区芝新橋 5-2） 1952 年 5 月～8 月　怪奇雑誌社（中央区新富町 2-16） 1952 年 8 月～　創文社（中央区新富町 2-16）
編集人・発行人	（編集人）手塚正夫→柳研太→手塚正夫→佐藤秋夫→佐藤昌男→秩父甚次郎 （発行人）手塚正夫→柳研太→手塚正夫→秩父甚次郎→佐藤昌男→秩父甚次郎
版型	Ｂ５版　創刊～1949 年（昭和 24）12 月？ Ｂ６版　～1950 年（昭和 25）5 月～ Ｂ５版時代は、創刊～2 号を除き「煖爐号」「迎春号」「爛漫号」「緑蔭号」など漢字２文字で「○○号」と名付けているのが特徴的。なお、この形態は、同じ出版社刊行の『奇抜雑誌』に受け継がれる。ページ数は 40～56 ページと薄手だった。Ｂ５版に変更した当初は 180 頁だったが、後には 300 頁を超え分厚くなる。
定価	Ｂ５版　35→50 円 Ｂ６版　65→90 円
収録	所蔵の 34 冊の内、26 冊を収録。

【各冊データ】　○はデータベース収録、未は所蔵しているが未収録、×は所蔵なし

巻号/タイトル		版型	頁数	定価	出版社	所蔵状況
創刊号	1948 年（昭和 23）10 月？					×
２号	1948 年（昭和 23）11 月	Ｂ５版	40 頁	35 円	創文社	未
煖爐号	1948 年（昭和 23）12 月	Ｂ５版	40 頁	38 円	創文社	未
迎春号	1949 年（昭和 24）2 月	Ｂ５版	44 頁	40 円	創文社	未
爛漫号	1949 年（昭和 24）4 月	Ｂ５版	52 頁	45 円	創文社	○
？？号						×
緑蔭号	1949 年（昭和 24）6 月	Ｂ５版	52 頁	45 円	創文社	○

？？号						×
爽風号	1949 年（昭和 24）7 月	B 5 版	52 頁	45 円	創文社	○
納涼号	1949 年（昭和 24）8 月	B 5 版	52 頁	45 円	創文社	未
涼風号	1949 年（昭和 24）9 月	B 5 版	52 頁	50 円	創文社	○
清秋号	1949 年（昭和 24）10 月	B 5 版	52 頁	50 円	創文社	○
秋聲号	1949 年（昭和 24）11 月	B 5 版	44 頁	50 円	創文社	未
爐辺号	1949 年（昭和 24）12 月	B 5 版	56 頁	50 円	創文社	未
----------（版型変更）----------						
3 巻 1 号						×
3 巻 2 号						×
3 巻 3 号	1950 年（昭和 25） 5 月	B 6 版	180 頁	65 円	創文社	○
3 巻 4 号						×
3 巻 5 号						×
3 巻 6 号	1950 年（昭和 25） 6 月	B 6 版	180 頁	65 円	創文社	○
3 巻 7 号	1950 年（昭和 25） 7 月	B 6 版	180 頁	65 円	創文社	○
3 巻 8 号						×
3 巻 9 号	1950 年（昭和 25） 9 月	B 6 版	180 頁	65 円	創文社	○
3 巻 10 号	1950 年（昭和 25）10 月	B 6 版	180 頁	65 円	創文社	未
3 巻 11 号	1950 年（昭和 25）11 月	B 6 版	180 頁	65 円	創文社	○
3 巻 12 号	1950 年（昭和 25）12 月	B 6 版	184 頁	65 円	創文社	未
4 巻 1 号	1951 年（昭和 26） 1 月号	B 6 版	204 頁	70 円	創文社	○
4 巻 2 号	1951 年（昭和 26） 2 月号	B 6 版	204 頁	70 円	創文社	○
4 巻 3 号	1951 年（昭和 26） 3 月号	B 6 版	204 頁	70 円	創文社	○
4 巻 4 号	1951 年（昭和 26） 4 月号	B 6 版	204 頁	70 円	創文社	○
4 巻 5 号	1951 年（昭和 26） 5 月号	B 6 版	204 頁	75 円	創文社	○
4 巻 6 号	1951 年（昭和 26） 6 月号	B 6 版	204 頁	75 円	創文社	○
4 巻 7 号						×
4 巻 8 号	1951 年（昭和 26） 8 月号	B 6 版	204 頁	75 円	創文社	○
4 巻 9 号						×
4 巻 10 号	1951 年（昭和 26）11 月号	B 6 版	232 頁	80 円	創文社	○
4 巻 11 号						×
4 巻 12 号	1951 年（昭和 26）12 月号	B 6 版	312 頁	90 円	創文社	○
5 巻 1 号						×
5 巻 2 号						×
5 巻 3 号						×

5巻4号	1952年（昭和27）5月号	B 6版	308頁	90円	怪奇雑誌社	○
5巻5号	1952年（昭和27）6月号	B 6版	308頁	90円	怪奇雑誌社	○
5巻6号	1952年（昭和27）7月号	B 6版	308頁	90円	怪奇雑誌社	○
5巻7号	1952年（昭和27）8月号	B 6版	308頁	90円	創文社	○
5巻8号	1952年（昭和27）9月号	B 6版	308頁	90円	創文社	○
5巻9号	1952年（昭和27）10月号	B 6版	308頁	90円	創文社	○
5巻　号	1952年（昭和27）11月号	B 6版	244頁	90円	創文社	○
5巻　号	1952年（昭和27）12月号	B 6版	280頁	90円	創文社	未
	付録「東洋二千年来の房中術性愛紅閨秘術十八法」	A 5版	68頁			未

14　『奇抜雑誌』

『怪奇雑誌』から派生した雑誌。より「奇抜」な傾向で、フェティシズム系の記事も多い。

書名	奇抜雑誌（きばつざっし）
刊行時期	1949年（昭和24）4月～1951年（昭和26）10月号～ 1949年（昭和24）4月に、「怪奇雑誌　別冊」という形で創刊された。今のところ確認できるのは、1951年（昭和26）10月号が最終。2年半ほどの寿命だったようだ。なお、発行人の秩父甚次郎の回想「エロ雑誌出版社の記録」には、「金も出来たし、要領も分つたし、いつまでもエロ本でもあるまいと思つて」芸能雑誌に転向したいきさつが書かれている（「風俗科学」1954年6月号、資料番号2-10-6）。 毎号（創刊号と2号は除く）、「紫苑号」「抱擁号」「歓喜号」のように漢字2文字で「○○号」と名付けているのが特徴的で、同じ出版社刊行の『怪奇雑誌』の初期の形態を受け継いでいる。
冊数	30冊？　内18冊を所蔵
出版社	創文社（東京都渋谷区緑ヶ丘7 →港区芝新橋5－2）
編集人・発行人	（編集人）柳研太→手塚正夫→高野義輝→秩父甚次郎 （発行人）柳研太→手塚正夫→秩父甚次郎
版型	B 5版時代　創刊～1951年4月 B 6版時代　1951年5月～終刊 創刊以来B 5版で刊行されていたが、末期にB 6版になる。
定価	B 5版時代　45→80円 B 6版時代　75円

奇抜雑誌別冊『猟奇生活』	1950 年（昭和 25）9 月 5 日に「奇抜雑誌　別冊」という形で『猟奇生活』という雑誌が刊行されている。発行所は創文社（東京都港区芝新橋 5-2）、編集人は高野よしてる、発行人は秩父甚次郎、B 5 版 88 頁で、定価は 70 円だった。表紙のデザインは『怪奇雑誌』涼風号（2 巻 9 号、1950 年 9 月）を流用している。
収録	所蔵の 18 冊の内、『猟奇生活』を含む 7 冊を収録。

【各冊データ】　○はデータベース収録、未は所蔵しているが未収録、×は所蔵なし

巻号/タイトル		版型	頁数	定価	出版社	所蔵状況
（創刊号）	1949 年 4 月	B 5 版	48 頁	45 円	創文社	○
（第 2 号）	1949 年 5 月	B 5 版	48 頁	45 円	創文社	未
紫苑号	1949 年 6 月	B 5 版	48 頁	45 円	創文社	未
青春号	1949 年 7 月	B 5 版	48 頁		創文社	×
情熱号	1949 年 8 月					×
愛情号	1949 年 9 月	B 5 版	48 頁		創文社	×
抱擁号	1949 年 10 月	B 5 版	52 頁	50 円	創文社	未
陶酔号	1949 年 11 月	B 5 版	52 頁	50 円	創文社	未
歓喜号	1949 年 12 月	B 5 版	48 頁	50 円	創文社	○
？？号	1950 年 1 月？					×
躍進号	1951 年 1 月	B 5 版	56 頁	50 円	創文社	未
爛漫号	1951 年 2 月	B 5 版	92 頁		創文社	×
明朗号（2 巻 3 号）	1951 年 4 月	B 5 版	96 頁	65 円	創文社	未
薫風号	1951 年 5 月	B 5 版	96 頁	65 円	創文社	未
爽快号（2 巻 6 号）	1951 年 6 月	B 5 版	96 頁	65 円	創文社	未
熱愛号（2 巻 7 号）	1951 年 7 月	B 5 版	96 頁		創文社	×
青春号（2 巻 8 号）	1951 年 8 月	B 5 版	96 頁	65 円	創文社	○
涼風号（2 巻 9 号）	1951 年 9 月	B 5 版	96 頁	65 円	創文社	○
浪漫号（2 巻 10 号）	1951 年 10 月	B 5 版	96 頁	65 円	創文社	未
共楽号（2 巻 11 号）	1951 年 11 月	B 5 版	116 頁	85 円	創文社	未
艶満号	1950 年 12 月？					×
新春魅力号（3 巻 1 号）	1951 年 1 月	B 5 版	120 頁	80 円		未
？？号（3 巻 2 号）	1951 年 2 月					×
求愛号（3 巻 3 号）	1951 年 3 月	B 5 版	96 頁		創文社	×
魅惑号（3 巻 4 号）	1951 年 4 月					×
----------（版型変更）----------						
明朗号（3 巻 5 号）	1951 年 7 月	B 6 版	202 頁	創文社	75 円	○

？？？（3巻7号）	1951年8月号	B 6版	212頁	創文社	75円	○
？？？（3巻9号）	1951年9月号	B 6版	202頁	創文社	75円	○

15　『青春タイムス』

B 5版やや厚手の小説が中心の月刊誌。

書名	青春タイムス（せいしゅんたいむす）
刊行時期	1948年（昭和23）7月～1952年（昭和27）9月号～ 「プランゲ文庫」に1948年7月刊行の創刊号が所蔵されている。1952年（昭和27）9月号まで確認できるので、少なくとも4年2カ月は刊行された。
冊数	51冊以上。内10冊を所蔵。
出版社	～1950年（昭和25）8月　新英社（新宿区早稲田鶴巻町42） 1950年（昭和25）9月～　青春タイムス社（同） 1951年（昭和26）8月～　フランス書房（同） 1952年（昭和27）？～　　弘和書房（千代田区神田多町2-2） 出版社の名称は3年間に四遷するが、新英社、青春タイムス社、フランス書房は住所の一致から同じ会社だろう。
編集人・発行人	今井昭夫
版型	B 5版
定価	35～95円
収録	所蔵の10冊の内1冊を収録。

16　『青春ロマンス』

B 5版やや厚手の小説が中心の月刊誌。

書名	青春ロマンス（せいしゅんろまんす）
刊行時期	1948年（昭和23）～1953年1月号 1949年7月号が2巻7号なので、1948年（昭和23）の創刊と推定できる。1953年（昭和28）1月号（7巻1号）が「廃刊号」となっているので、足かけ7年の刊行だった。

冊数	62 冊以上？　内、12 冊を所蔵。
出版社	クラブ社（渋谷区千駄ヶ谷 4-736）
編集人・発行人	松本力
版型	Ｂ５版
定価	60→90 円
備考	1949 年 10 月に『青春ロマン』という書名が類似する雑誌が創刊されているが別物。
収録	所蔵の 12 冊を収録。

17　『オール・ロマンス』

書名	オール・ロマンス
刊行時期	1948 年（昭和 23）4 月～1954 年？ 「プランゲ文庫」に 1948 年 4 月の創刊号がある。現在、6 巻 6 号（1953 年 6 月号）まで確認できる。1953 年頃、『話題と読物』に改題したが、同年 6 月、『オール・ロマンス』に復題。 1954 年(昭和 29 年)、雑誌サイズを変更したが、2～3 冊の発行で廃刊となる。
冊数	不詳、70 冊前後か？
出版社	オール・ロマンス社（品川区東大崎 5-1）
編集人・発行人	（編集人）本多喜久夫→芝田眞　（発行人）本多喜久夫
版型	Ｂ５版。
定価	20～90 円
収録	所蔵 3 冊の内 1 冊を収録。

18　『読切ロマンス』

読み物中心の月刊誌だが、緊縛写真も掲載している。

書名	読切ロマンス（よみきりろまんす）

刊行時期	1949 年（昭和 24）12 月？～1954 年（昭和 29）2 月号～ 今のところ、1954 年（昭和 29）2 月号まで確認できる。少なくとも足かけ 6 年刊行されたことになる。
冊数	51 冊以上。内、8 冊を所蔵。
出版社	サンライズ書房→睦書房（千代田区神田駿河台 3-3）
編集人・発行人	（編集人）小堀神風→川越嵬→上田青柿郎→水島良雄 （発行人）久保田嶽五郎→小林光雄
版型	Ｂ６版
定価	90 円
収録	所蔵の 8 冊を収録。

19　『読切雑誌』

書名	読切雑誌（よみきりざっし）
刊行時期	1950 年（昭和 25）？～1973 年（昭和 48）5 月？ 国会図書館に 8 巻 10 号（1957 年 8 月)があり、筆者が 9 巻 4 号（1958 年 3 月　臨時増刊）を所蔵していることから逆算すると、1950 年（昭和 25）の創刊か。国会図書館には、24 巻 5 号(1973 年 5 月)まで収蔵。なお、「ブランゲ文庫」に 1946 年 10 月創刊の『読切雑誌』（教材社、2 巻 5 号＝1947 年 6 月まで）と、1949 年 1 月に 3 巻 2 号を出している『読切雑誌』（雨読書院、4 巻 11 号＝1949 年 11 月まで）があるが別系統。
冊数	不詳、260 冊前後か？
出版社	双葉社（新宿区市ヶ谷田町 3-17）
編集人・発行人	（編集人）石山三郎　（発行人）矢沢領一
版型	Ｂ６版
定価	95 円
収録	所蔵の 1 冊を収録。

20・21・22　『奇抜探究』、『別冊　怪奇世界』、『怪奇秘話』

この3点については、書誌というほどのものが書けない。

『奇抜探究』は、B6版308頁で、それなりの体裁の性風俗雑誌だが、奥付がない。最終ページに「昭和二十七年八月一日発行」とあるのみで、発行所（出版社）の記述がどこにもない。奥付がない雑誌もあるが、その場合は表紙もしくは裏表紙の肩に記してあるものだが、それもない。1940年代後半～50年代前半の戦後混乱期の雑誌には、巻次が混乱しているなど、けっこういい加減なものもあるが、出版社が不明というのは初めてだ。

古書市場に、1953年（昭和28）12月発行の同名の雑誌があった。発行は蒼空社となっている。おそらく、これだろう。

蒼空社（千代田区西神田2-4）は、1953年（昭和28）10月に『怪奇秘話』自慢物識号を出している。この書名は、当時、人気だった『怪奇雑誌』を真似ていて、実際、『怪奇雑誌』4巻8号（1951年8月）とまったく同じ記事が6本もある。さらに4巻12号（1951年12月号）と同じ記事が1本ある。どうも、蒼空社は、あまり質（たち）が良くない出版社だったようだ。そういえば、『奇抜探究』という誌名も、当時の人気誌『奇抜雑誌』と『人間探究』の合成のように思える。

『別冊　怪奇世界』は、奥付があり、1951年（昭和26）1月、加賀屋書房の刊行であることがわかる。ところが、奥付の誌名は『別冊　猟奇世界』になっている。自分の雑誌の名前を間違えるなんてことあるだろうか？　『猟奇世界』という雑誌は1949年6月に刊行されている（プランゲ文庫所蔵）。ただし、出版社は「猟奇世界社」で加賀谷書房ではない。どういう事情があるのか不明だが、ともかくいい加減な話だ。

これらの雑誌は、継続して刊行する気はなく、1号、せいぜい数号出して売れればいいという「出し逃げ」だったと思われる。

23　『風俗奇譚』（月刊）

創刊号の表紙に「男女性風俗の粒より話題の探究」とある。サディズム、マゾヒズム、男性同性愛、女性同性愛、女装・男装、切腹など各種フェティシズムを包括する月刊の「変態」性風俗総合雑誌。

書名	風俗奇譚（ふうぞくきたん）
刊行時期	1960年（昭和35）年1月号～1974年（昭和49）10月号 1960年1月刊行の「風俗奇譚　臨時特集号」が創刊号に相当する。
冊数	176冊 『風俗奇譚』は、月刊分に関しては、創刊から終刊までほぼ定期刊行が守られた。ただし、創

	刊直後の 1960 年 3 月は、「春の臨時増刊号」だけが刊行されて、通常号は刊行されていない。同誌の創刊から休刊まで編集人だった高倉一が創設した「風俗資料館」（東京都新宿区揚場町）にほぼ全冊が収蔵されているが、同館の所蔵雑誌目次目録では、「春の臨時増刊号」を 1960 年 3 月号として扱っている。しかし、内容などから臨時増刊として扱った方が良いと思う。また、1962 年（昭和 37）だけは、１・２月合併号になっている。その結果、月刊分は、1960 年と 1962 年が 11 冊、1961 年、1963～1973 年が 12 冊、1974 年が 10 冊の計 176 冊となる。
出版社	文献資料刊行会
編集人・発行人	高倉一
版型	Ａ５版
定価	300～450 円
後継誌・復刊	『風俗奇譚』は 1974 年（昭和 49）10 月号を最期に休刊になったが、1974 年（昭和 49）11 月号創刊の『ＳＭファンタジア』（刊行：文献資料刊行会、編集人：高倉一）は、刊行主体、編集人が同一で、一部の連載小説が受け継がれるなど実質的な後継誌だった（1975 年 9 月号まで 11 冊で休刊）。さらに 1980 年代に「復刊・風俗奇譚」（発行：檸檬社、編集人：高倉一）として 5 冊が刊行されている。
収録	176 冊中、所蔵の 146 冊を収録。

【女装記事について】

『風俗奇譚』は、創刊程ない 1960 年 9 月号で「女装する男たち」を特集し、61 年 2 月号からは女装関係の投稿通信欄「女装愛好の部屋」を常設するなど女装記事に力を入れる。さらに 1959 年に創立された女装秘密結社「富貴クラブ」の活動ルポや、会員の手記、写真を独占的に毎号掲載していく。『風俗奇譚』にとっては、ハイレベルな女装関係記事を安定的に掲載でき、「富貴クラブ」にとっては月刊雑誌を広報媒体にして会員数をふやすという、両者にとってメリットがあった。

「富貴クラブ」と『風俗奇譚』との提携関係は、「富貴」の西塔哲会長（筆名：鎌田意好＝かまだいすき）と『風奇』の高倉一編集長が、たまたま旧制東京府立第三中学（現：都立両国高校）の先輩・後輩だったことによる（高倉一氏の談話）が、両者の略称「ふうき」の類似性など、どこか計画的なものを感じる。

こうして、『風俗奇譚』は全国に散在する女装者や女装者愛好男性にとっての必読の雑誌となっていく。

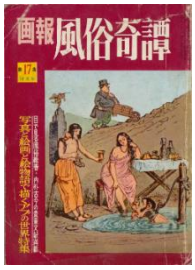
24　『風俗奇譚』（臨時増刊）

書名	風俗奇譚（臨時増刊）（ふうぞくきたん　りんじぞうかん）
刊行時期	1960 年（昭和 35）3 月～1973 年（昭和 48）1 月
冊数	40 冊 『風俗奇譚』（月刊）とは通巻が同じ体系。
出版社	文献資料刊行会
編集人・発行人	高倉一
版型	Ａ５版（通巻 19 号のみＢ５版）
定価	280～500 円
冊数の確定	『風俗奇譚』は月刊誌の他に「臨時増刊」と「画報」が刊行されていて、その書誌はかなり複雑である。たとえば「臨時増刊」は月刊誌の通巻に含まれるが、「画報」は通巻に含まれていない。「臨時増刊」については、「風俗資料館」の収蔵に若干の漏れがあったように思う。そのためか、同館の所蔵雑誌目次目録には「臨時増刊」は含まれてなく、全容がはっきりしなかった。そこで「臨時増刊」についての収集と整理を行った。その結果、「臨時増刊」は 40 冊刊行されたと思われる。現在、手元に 38 冊を所蔵している（未所蔵２冊）。
収録	所蔵の 38 冊を収録。

【各冊データ】　○はデータベース収録、×は所蔵なし

巻号	タイトル	所蔵状況
(１)1960 年春の臨時増刊号（通巻 3）	妖異・猟奇・艶笑特選読物 25 編	○
(２)1960 年夏の臨時増刊号（通巻 7）	特集・変態性欲犯罪実録・世界怪奇残虐秘話	○
(３)1961 年 5 月臨時増刊号（通巻 19）	特集マゾヒストの天国・同性愛の法悦境（Ｂ５版）	○
(４)1961 年 9 月臨時増刊号（通巻 23）	サド小説とマゾ読み物特集	○
(５)1961 年 12 月臨時増刊号（通巻 28）	サド・マゾ傑作小説と妖美読み物特集号	○
(６)1963 年 1 月臨時増刊号（通巻 41）	サドの花園・マゾの天国・ホモの楽園特集号	○
(７)1963 年 4 月臨時増刊号（通巻 45）	画報版・妖美の世界	○
(８)1963 年 8 月臨時増刊号（通巻 50）	画報・サドとマゾとホモの世界	○
(９)1964 年 1 月臨時増刊号（通巻 56）	画報　魅惑への郷愁（１）	○
(10)1964 年 4 月臨時増刊号（通巻 60）	サドの花園・マゾの天国・ホモの楽園特集号	○

(11)1964 年 8 月臨時増刊号（通巻 65）	画報　魅惑への郷愁（2）	○
(12)1965 年 1 月臨時増刊号（通巻 71）	画報　魅惑への郷愁（3）	○
(13)1965 年 4 月臨時増刊号（通巻 75）	画報　魅惑への郷愁（4）	○
(14)1965 年 8 月臨時増刊号（通巻 80）	画報　魅惑への郷愁（5）	○
(15)1966 年 1 月臨時増刊号（通巻 86）	画報　魅惑への郷愁（6）	○
(16)1966 年 4 月臨時増刊号（通巻 90）	画報　魅惑への郷愁（7）	○
(17)1966 年 8 月臨時増刊号（通巻 95）	画報　魅惑への郷愁（8）	○
(18)1967 年 1 月臨時増刊号（通巻 101）	画報と読み物特集号（1）	○
(19)1967 年 4 月臨時増刊号（通巻 105）	画報と読み物特集号（2）	○
(20)1967 年 8 月臨時増刊号（通巻 110）	愛蔵版（1）画報と読み物特集号	○
(21)1968 年 1 月臨時増刊号（通巻 116）	愛蔵版（2）傑作読み切り短編特集号	○
(22)1968 年 4 月臨時増刊号（通巻 120）	愛蔵版（3）傑作読み切り短編特集号	○
(23)1968 年 8 月臨時増刊号（通巻 125）	愛蔵版（4）傑作読み切り短編特集号	○
(24)1969 年 1 月臨時増刊号（通巻 131）	愛蔵版（5）傑作読み切り短編特集号	○
(25)1969 年 4 月臨時増刊号（通巻 135）	愛蔵版（6）傑作読み切り短編特集号	○
(26)1969 年 7 月臨時増刊号（通巻 139）	世界名作カラー版シリーズ（1）「鞭の歓び」	○
(27)1969 年 10 月臨時増刊号（通巻 143）	愛蔵版（7）傑作読み切り短編特集号	○
(28)1970 年 1 月臨時増刊号（通巻 147）	世界名作カラー版シリーズ（2）「縄と鞭」	○
(29)1970 年 4 月臨時増刊号（通巻 151）	愛蔵版（8）傑作読み切り短編特集号	○
(30)1970 年 7 月臨時増刊号（通巻 155）	愛蔵版（9）傑作読み切り中編特集号	○
(31)1970 年 10 月臨時増刊号（通巻 159）	世界名作カラー版シリーズ（3）「女神の履歴書」	○
(32)1971 年 1 月臨時増刊号（通巻 163）	愛蔵版（10）傑作読み切り短編特集号	○
(33)1971 年 4 月臨時増刊号（通巻 167）	世界名作カラー版シリーズ（4）「スワンの城」	○
(34)1971 年 7 月臨時増刊号（通巻 171）	愛蔵版（11）傑作読み切り短編特集号	○
(35)1971 年 10 月臨時増刊号（通巻 175）	世界名作カラー版シリーズ（5）「淫虐なる女神たち」	○
(36)1972 年 1 月臨時増刊号（通巻 179）	愛蔵版（12）傑作読み切り中編特集号	○
(37)1972 年 4 月臨時増刊号（通巻 183）	世界名作カラー版シリーズ（6）「女神の誕生」（女神の履歴書完結編）「鏡の中の悦虐」（続・スワンの城）	○
(38)1972 年 7 月臨時増刊号（通巻 187）	「紫金城の女神」？	×
(39)1972 年 10 月臨時増刊号（通巻 191）	「続・紫金城の女神」読切傑作短編集	○
(40)1973 年 1 月臨時増刊号（通巻 195）	「紫金城の女神・第 3 部」	×



25　『画報　風俗奇譚』

『風俗奇譚』の画報版で「目で見る（変態）風俗絵巻」と称す。

書名	画報　風俗奇譚（がほう　ふうぞくきたん）
刊行時期	1960 年（昭和 35）5 月～1961 年 10 月
冊数	全 19 冊（17 集＋臨時増刊 2 冊） 『風俗奇譚』（月刊・臨時増刊）とは通巻が別体系で、独自。途中、通巻記載に誤りがある（※印の 3 冊）。
出版社	文献資料刊行会
編集人・発行人	高倉一
版型	A 5 版（2 冊の臨時増刊は B 5 版）
定価	180～280 円
収録	所蔵の 18 冊を収録。

【各冊データ】　○はデータベース収録、×は所蔵なし

No.	タイトル	通巻	所蔵状況
1	『画報 風俗奇譚』（1 集）（1960 年 5 月）	（通巻記載なし）	○
2	『画報 風俗奇譚』 2 集（1960 年 7 月）	（通巻記載なし）	○
3	『画報 風俗奇譚（秘蔵版）』 3 集（1960 年 8 月）	（「通巻 3 号」と記載）	○
4	『画報 風俗奇譚』 4 集（1960 年 9 月）	（「通巻 4 号」と記載）	○
5	『画報 風俗奇譚』 5 集（1960 年 10 月）	（「第 1 巻第 5 号」と記載）	○
6	『画報 風俗奇譚』 6 集（1960 年 11 月）	（「通巻 6 号」と記載）	○
7	『画報 風俗奇譚』 7 集（1960 年 12 月）	（「通巻 7 号」と記載）	○
8	『画報 風俗奇譚』 8 集（1961 年 1 月）	（「通巻 8 号」と記載）	○
9	『画報 風俗奇譚』臨時増刊（1961 年 1 月）（B 5 版）	（「第 2 巻 2 号」と記載）	○
10	『画報 風俗奇譚』 9 集（1961 年 2 月）	（「通巻 10 号」と記載）	○
11	『画報 風俗奇譚』10 集（1961 年 3 月）	（「通巻 10 号」と記載）※	○
12	『画報 風俗奇譚』11 集（1961 年 4 月）	（「通巻 11 号」と記載）※	○
13	『画報 風俗奇譚』臨時増刊（1961 年 4 月）「伊藤晴雨追悼号」（B 5 版）	（「通巻 12 号」と記載）※	○
14	『画報 風俗奇譚』12 集（1961 年 5 月）	（「通巻 14 号」と記載）	○

15	『画報 風俗奇譚』13 集（1961 年 6 月）	（「通巻 15 号」と記載）	○
16	『画報 風俗奇譚』14 集（1961 年 7 月）	（「通巻 16 号」と記載）	○
17	『画報 風俗奇譚』15 集（1961 年 8 月）	（「通巻 17 号」と記載）	○
18	『画報 風俗奇譚』16 集（1961 年 9 月）		×
19	『画報 風俗奇譚』17 集（1961 年 10 月）	（「通巻 19 号」と記載）	○

26　『演劇評論』／「演研通信」

『演劇評論』（THE ATRICAL REVIEW）は 1950 年代後半に活動した日本最初のアマチュア女装サークルの会誌である。私的な研究会の頒布誌であり、雑誌とは言えないが、その稀少性を考慮して収録した。

書名	演劇評論（えんげきひょうろん）
刊行時期	1955 年（昭和 30）5 月～1957 年 12 月
冊数	『演劇評論』24 冊＋「演研通信」 6 号
出版社	演劇研究会
編集人・発行人	滋賀雄二
版型	Ｂ５版
収録	所蔵の 17 冊と「演研通信」 6 号分を収録。

「演劇研究会」は、女装者愛好男性（自分は女装しないが女装者が好きな男性）である滋賀雄二を会長とし、1955 年 10 月に発会した女装者と女装者愛好男性とを会員とする同好会で、1958 年末頃まで約 3 年余、活動した。その解体後、多くの会員が 1959 年に創立される女装秘密結社「富貴クラブ」に参加したこともあり、戦後日本のアマチュア女装文化の原点となった。

「演劇研究会」は最大時の会員数 72 名（1958 年 5 月）で、ガリ版刷の会誌『演劇評論』は一般配布はされていないので、発行部数は少なく、おそらく 40～70 部と推測される。

しかも、秘匿性が高い内容なので、この世に残っているのは 1，２点だと思う。少なくとも古書市場では 1 度も見たことがない。

『演劇評論』は冊子体（縦 23.5ｃｍ×横 17.7ｃｍ）で 25 号まで刊行され、合併号が 1 つあるので 24 冊ということになる。その内、9、11、12、14、15、16、19、20、21、23・24 合併号の 10 冊は山崎淳子さん（会員番号 48 番）寄贈の現物で、5、6、13、17、18、22、25 号の 7 冊を美島弥生さん（会員番号 56 番）所蔵のものをコピーさせていただき、三橋が所持している。あわせて、全 24 冊の内 17 冊の内容がわかるが、1～4 号、7、8、10 号は未見で、この世に存在するかどうか、かなり疑わしい。

また、『演劇評論』が刊行できなくなった末期に、会員に配布された 4 頁の「演研通信」が少なくとも 6 号まであり、1，2，5，6 号を現物で、3，4 号をコピーで所持している。また、会員名簿（1956 年 5 月

発行）１冊がある。

【各冊データ】　○はデータベース収録、×は所蔵なし

『演劇評論』（刊記はなく、発行年月は三橋の推定）

巻号	発行年月（推定）	頁数	所蔵状況
１～４号			×(未見)
５号	1956 年 2 月？発行	12 頁	○(コピー)
６号	1956 年 4 月？発行	12 頁	○(コピー)
７～８号			×(未見)
９号	1956 年 7 月？発行	12 頁	○(現物)
10 号			×(未見)
11 号	1956 年 9 月？発行	12 頁（口絵 1 点）	○(現物)
12 号「創立一周年記念号」	1956 年 10 月？発行	24 頁（口絵 3 点）	○(現物)
13 号	1956 年 12 月？発行	24 頁	○(コピー)
14 号	1957 年 1 月？発行	24 頁（口絵 1 点）	○(現物)
15 号	1957 年 2 月？発行	24 頁（口絵 1 点）	○(現物)
16 号	1957 年 3 月？発行	24 頁	○(現物)
17 号	1957 年 4 月？発行	24 頁	○(コピー)
18 号	1957 年 5 月？発行	24 頁（別刷「変った人」）	○(コピー)
19 号	1957 年 6 月？発行	24 頁（挿入紙 1 枚）	○(現物)
20 号	1957 年 7 月？発行	24 頁（口絵 1 点）	○(現物)
21 号	1957 年 8 月？発行	24 頁（口絵 1 点）	○(現物)
22 号	1957 年 9 月？発行	24 頁	○(コピー)
23・24 合併号「創立二周年特集号」	1957 年 10 月？発行	48 頁（口絵 1 点、貼込写真 2 点）	○(現物)
25 号	1957 年 12 月？発行	24 頁	○(コピー)

「演研通信」

巻号	発行年月（推定）	版型	頁数	所蔵状況
１号	1958 年 1 月？発行	B５版	４頁	○(現物)
２号	1958 年 2 月？発行	B５版	４頁	○(現物)
３号	1958 年 3 月？発行	B５版	４頁	○(コピー)
４号	1958 年 4 月？発行	B５版	４頁	○(コピー)

5号	1958年5月？発行	B 5版	4頁	○(現物)
6号	1958年10月？発行	B 5版	4頁	○(現物)

まとめにかえて

各雑誌の書誌については、はじめに述べたように、精粗があり十分なものではないが、今の時点で判っていることを記した。収集が進めば、新たに判ることもあるだろうが、私の年齢からして、それを待っていられる状況ではない。さらに詳細な書誌の解明は、後進の手に委ねる。

最後に、まとめに代えて、少しだけ考察めいたことを記しておこう。
「データベース」に収録した性風俗雑誌を創刊時期でおおまかに分類すると、次の3グループになる。

（1）1946年の創刊　『りべらる』(1月)、「デカメロン」(12月)
（2）1948年～49年9月の創刊　『オール・ロマンス』(1948年4月)、『千一夜』(1948年5月)、『怪奇雑誌』(1948年10月)、『青春ロマンス』(1948年)、『奇抜雑誌』(1949年4月)、『眞相實話』(1949年5月)、『青春タイムス』(1949年7月)
（3）1949年10月～55年創刊　『読切ロマンス』(1949年12月？)、『読切雑誌』(1950年)、『人間探究』(1950年5月)『あまとりあ』(1951年3月)、『風俗草紙』(1953年7月)、『風俗科学』(1953年8月)、『風俗クラブ』(1954年3月)、『内外特報』(1953年9月)、『夜よむ新聞』(1954年7月)

（1）はGHQ検閲時代に「カストリ雑誌」として刊行され、1950年代まで生き残った「老舗」雑誌である。（2）は検閲時代後期の創刊された「カストリ雑誌」としては末期のもので、1950年代まで刊行されたもの。（3）は検閲が終わり、戦後混乱期の生活の困窮もようやく落ち着きつつある時期の創刊で、私が「1950年代の四大性風俗雑誌」と考える『人間探究』『あまとりあ』『風俗草紙』『風俗科学』が出揃う（ただし、「四大誌」が同時に刊行されたのは1953年8月だけ)。1952～53年頃が、質量ともに50年代の「性風俗雑誌」の全盛期だった。しかし、その全盛は長くなかった。

次に、終刊時期をみると、『奇抜雑誌』(1951年10月？)、『青春タイムス』(1952年9月？)、『真相実話』(1952年10月？)、『怪奇雑誌』(1952年12月？)、『青春ロマンス』(1953年1月)、『オール・ロマンス』(1953年6月？)、『人間探究』(1953年8月)、『読切ロマンス』(1954年2月)、『千一夜』(1954年7月)、『風俗草紙』(1954年10月)、『風俗科学』(1955年3月)、『デカメロン』(1955年3月？)、『あまとりあ』(1955年8月)、『りべらる』(1955年9月）となる。

とくに1954～55年に廃刊となる雑誌が多く、1956年以降まで刊行が続いたものはほとんどない（『奇譚クラブ』は数少ない例外)。敗戦後10年、性風俗雑誌の時代は、ひとつのピリオドを迎えたと思われる。

「性文化雑誌」として順調な刊行を続けていた『あまとりあ』が1955年8月号で終刊になるのは、経

営問題ではなく（ずっと黒字）、当時、吹き荒れた「悪書追放運動」の標的にされたためだった（終刊号掲載「おなごり座談会　悪書？製造者大いに語る」）。
ほぼ同じ時期に、敗戦後の混乱期に出版された「カストリ雑誌」時代からの生き残りである老舗・性風俗雑誌の『りべらる』（1955 年 9 月）と『デカメロン』（1955 年 3 月？）が終刊を迎える。『風俗科学』も同時期に終わっている（1955 年 3 月）。

これら 1955 年前後に終刊となる雑誌についても、『あまとりあ』と同様の事情が想定され、「悪書追放運動」の影響は、私が思っていた以上に大きかったのではないか、と思えてくる。

「悪書追放運動」は、1954 年頃から社会的に顕在化し、鳩山一郎首相の衆議院本会議での演説（1955 年 1 月 22 日）で、「不良出版物」などの氾濫が「わが国の将来をになうべき青少年に対して悪影響を与えていること」を憂慮し、政府として「民間諸団体の協力」を得て不良出版物の「絶滅のため適切な対策」を講じたい、と述べたことをきっかけにたちまち全国に展開した。少なくとも 1955 年の時点では、「悪書」とされた書籍・雑誌の大量裁断や焼却をともなうかなり苛烈な出版に対する弾圧（焚書）だった。その「不良出版物」リストには『あまとりあ』だけでなく『りべらる』も載っていたという。

「悪書追放運動」は前回の東京オリンピック（1964 年）の前に、「東京都青少年の健全な育成に関する条例」が制定（1964 年 8 月）されるなど、また盛り上がる。
この条例に基づく「不健全図書」に指定された『風俗奇譚』（文献資料刊行会）は、『奇譚クラブ』（天星社）、『裏窓』（あまとりあ社）と連名の「愛読者のみなさまへのお願い」を巻頭に掲載した（1964 年 9 月号）。そこには「元来、私どもの雑誌は、けっして単なる性雑誌ではなく、特殊な専門誌を自負して発行してきたのですが、青少年保護育成に関する論議がとみに高まりつつある現今の情勢に対処すべく、いっそうの自主規制を、このたび申し合わせました」とあり、苦しい状況に陥ったことがわかる（資料番号 23-47-4）。
ちなみに、私（1955 年生）の世代は、街のあちこちにあった「悪書追放」の白い箱を知っているが、その設置もこの頃だった。あの「白ポスト」がそれほどの影響力があったのか？　今となってはちょっと不思議な気がする。

今回の東京オリンピック（2020 年予定、2021 年実施）の前にも、大手コンビニエンスストアが「成人向け雑誌」の販売を中止したことは記憶に新しい。性的な出版物の「追放」は、形を変えて現在も続いている。それだけでなく、「悪書追放運動」に始まる性的なものを無化し「浄化」しようとする動きは、日本の「性教育」の貧困、性風俗産業への抑圧、セックスワーカーへの蔑視などさまざまな問題につながっていて、けっして過去の問題ではない。

私たちと日本社会が本来持っていたはずの、性的な多様性、性的な自由、そして性的な豊かさを脅かすものは何なのか？　もう一度、考えてみるべきだと思う。

【参考文献】橋本健午『有害図書と青少年問題―大人のオモチャだった“青少年”―』（明石書店、2002 年）